



The Coca-Cola Educational &
Environmental Foundation

報道関係各位

2010年8月9日
財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

応募総数 193 団体の中から
『第 17 回コカ・コーラ環境教育賞』大賞決定！
活動表彰部門 さいたま市立日進小学校(埼玉県)
次世代支援部門 沖縄県立宮古総合実業高等学校 環境班(沖縄県)
8月7日 雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスにて最終選考実施

財団法人コカ・コーラ教育・環境財団(所在地:東京都港区 理事長:末吉 紀雄)は、去る8月7日、「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」(北海道夕張郡栗山町)において、『第17回コカ・コーラ環境教育賞』の最終選考会を実施いたしました。最終選考会には、全国193の団体から選出された小学生から高校生までの15の団体が参加し、各団体が手掛ける環境活動の実績や成果、今後の企画を発表。厳正な審査の結果、『第17回コカ・コーラ環境教育賞』の2つの部門で、「さいたま市立日進小学校(埼玉県)」(活動表彰部門)と、「沖縄県立宮古総合実業高等学校 環境班(沖縄県)」(次世代支援部門)とが、それぞれ大賞を受賞いたしました。

コカ・コーラ環境教育賞は、1994年の賞設立から17回目を数え、これまで環境ボランティア活動の助成・支援を通じた環境教育・環境保全活動の促進を目的として、国内の環境教育分野の推進に大きく貢献しています。同賞は、小中学生とその指導者を対象として、地域社会に根ざした環境教育・環境保全活動実績を顕彰する「活動表彰部門」と、高校生および大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を評価し、具現化のための支援をする「次世代支援部門」の2部門で実施しております。

本年度は、193団体(活動表彰部門133団体、次世代支援部門60団体)の中から選ばれた15団体(活動表彰部門10団体、次世代支援部門5団体)が8月7日の最終選考会に臨み、大賞が決定いたしました。

【第17回コカ・コーラ環境教育賞 受賞結果】

■ 「活動表彰部門」大賞
さいたま市立日進小学校(埼玉県)

活動内容:

保護者や地域の環境ボランティアと連携し継続的に活動。ビオトープの整備・維持・管理、野生動物の保護活動、絶滅危惧種のタコノアシやニホンアカガエルの保護・育成、植樹、環境勉強会など内容も幅広い。

■ 「次世代支援部門」大賞
沖縄県立宮古総合実業高等学校 環境班(沖縄県)

活動内容:

地下水の保全のために水質調査を実施し、有機肥料を開発・活用。宮古島の地下水の汚染物質である硝酸態窒素の濃度を測定し現状を把握・監視。有機肥料を開発し島の農業に普及させる。また、島で栽培歴のない蕎麦の育成にも挑戦している。

【第 17 回コカ・コーラ環境教育賞 選考委員長 総評】

■ コカ・コーラ教育・環境財団 財団理事 小澤 紀美子(こざわ きみこ)氏

「コカ・コーラ環境教育賞」は年々、応募団体の活動について、質の向上が顕著にみられている。第 17 回コカ・コーラ環境教育賞の最終選考会の審査は難を極めた。プレゼンテーションを行った 15 団体全てが、自分たちの実際の活動に基づいた内容を、リアリティがある言葉で自信を持って発表していたのが非常に印象的であった。

次世代支援部門は、どの団体も地域に密着した課題に基づいて、地域の活性化につなげる公益性の視点に優れた活動をしており、大賞を受賞した団体は特に、地域が未来にかけて抱えている問題点の解決に向けたプロジェクトの着眼点の良さと、地域への貢献につながる具体的な計画の内容が評価された。

活動表彰部門においても、全ての団体の活動が世界に向けて誇れる内容のものであった。大賞を受賞した団体は、特に都市化している地域での環境の改善という新しい視点と、自然環境を整えることによって学校と地域とのつながりを創出している点が評価された。

今回最終選考会に参加してくれた若者たちが日々努力し、素晴らしい実践を行っていることが分かり、未来に対して明るい展望が持てた。現在、日本社会全体が内向的になっているが、今後は、これらの良い実践を他の地域にも提案、拡大し、さらに世界に向けて発信し、良いサイクルを創りだしてほしい。

【第 17 回コカ・コーラ環境教育賞 優秀賞受賞団体】

活動表彰部門 9 団体(対象:小中学生及びその指導者)		
秋田県	秋田県湯上市立大久保小学校(湯上市)	「草木谷」での農業体験とビオトープによる環境学習。休耕田の再生や 25 年続く川の水質調査を展開。活動を他県の環境系フォーラムなどで発表。積極的な活動により、シンボルマークが地元商品に採用された。
栃木県	葉鹿エコクラブ(足利市)	地域の川の生物調査や浄化活動を実施。廃油回収と石鹼作り、親子環境学習会、鮭の放流、幼稚園と共同で行うシイタケの駒打ちなどを多岐に渡る活動を行い、実践内容はブログで発信している。
茨城県	八溝自然たんけんたい(久慈郡)	地元の八溝山にて探鳥会や生物調査を実施。地域の環境団体・子ども会との連携や、外部講師による環境学習など、オープンな活動を展開。また月に 2、3 回「里山だより」を発行し、対外的な情報発信に努めている。
東京都	品川区立第一日野小学校(品川区)	環境「ISO」の取り組みを中心に各種の環境活動に挑戦。全校美化や節電・節水など実践的な活動を展開。また、洞爺湖サミットでの国際テレビ会議の参加、クウェート国王の妹アムサール妃にアラビア語のポスターを贈呈するなど、世界に向けての情報発信を発信。
岐阜県	岐阜県加茂郡東白川村立東白川中学校(加茂郡)	山林保全活動や白川・伊勢湾の水質調査などを展開。長年に渡り教育課程に村内の山林保全活動を位置付け環境教育に取り組んでいる。林業体験として、1 人約 30 本の苗木の植樹や、枝打ち作業を実施。
滋賀県	東近江市立能登川南小学校(東近江市)	地域の自然環境を守るため里山を舞台に自然観察や水環境学習を実施。学校内の環境教育という枠を超えて、地域の拠点となり活動している。毎年子どもの提案を基に活動内容を決定している。

香川県	三豊市立下高瀬小学校(三豊市)	省エネ学習を中心に環境・エネルギー教育を実施。省エネ項目「下小もったいない憲法」の掲示や、節電を呼び掛ける「省エネ委員会」の設置などをはじめ、多角的な活動を行っている。
宮崎県	延岡市立三川内中学校(延岡市)	地域の自然を大切にす生徒の育成を目標に環境教育を実施。校内緑化やリサイクル活動、水生生物調査など、総合的な活動を行う。今年度から環境省主催の「こどもエコクラブ」に参加し、意識高揚に努めている。
沖縄県	久米島ホテルの会(島尻郡)	久米島のみで生息する「クメジマホタル」をシンボルに環境の保護・保全を行う。「カンジダム湖」の水質改善のために、近隣の小学校・農家・町役場と協力し、湿地棚田とホタル水路を整備する活動や、外来種駆除やホタル保護活動等を実施。
次世代支援部門 4 団体(対象:高校生・大学生)		
北海道	北海道岩見沢農業高等学校(岩見沢市)	10 年来取り組んでいる雪山からの「雪冷熱」と地中からの「地中熱」の農業利用、地域産業の高度化、省力化についての成果を生かし、新エネルギーを体感し学ぶことのできる、学習施設(ハウス)を運用。
富山県	富山県立中央農業高等学校 農業特別専攻科 「農と食と環境を結ぶ 環境創造型農法開発チーム」(富山市)	環境創造型農法の開発を展開。除草剤・化学肥料を使用しない米ぬか農法に使用する米ぬかの散布機械開発や、米ぬかからのバイオディーゼル燃料の精製加工を実施。農産物のフランス輸出や、ベトナムでの農機具実験など、海外での活動も展開している。
佐賀県	佐賀県立唐津南高等学校 農業クラブ 「松露プロジェクトチーム」(唐津市)	地元「松南の森」の松葉掻き・除草・苔取り・広葉樹の伐採を地域と協力して実施。クロマツの単層林を実現し、最終的に「幻のキノコ」と呼ばれる「松露」が生育する森にするため、日常的な森林保全活動を展開。
熊本県	熊本県立八代農業高等学校泉分校 (八代市)	地元の森林の樹木を、樹皮を剥ぎとって立ち枯らす方法「巻枯らし間伐」で保護。地域の小中学生と協働して間伐を実施。今後は町から間伐予定の森林を紹介してもらい、作業を行う計画。また熊本学園大学や外部森林保全団体との協働も予定している。

【第 17 回コカ・コーラ環境教育賞 概要】

名 称	第 17 回コカ・コーラ環境教育賞
主 催	財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
後 援	文部科学省、環境省
部 門	<活動表彰部門> 小中学生とその指導者を対象として環境教育・環境保全活動の実績を顕彰
	<次世代支援部門> 高校生および大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を評価、支援
支 援 内 容	<活動表彰部門> 大賞(1 組) 活動助成金 50 万円 優秀賞(9 組) 10 万円
	<次世代支援部門> 大賞(1 組) 企画支援金 100 万円 優秀賞(4 組) 30 万円